



左から：本多英一、佐野佳世、三井怜子、奥野未知慧 各氏

## 女性部特集 座談会

# 部員がひとつになつて 地域に貢献

女性経営者や女性創業者が増加するなど最近、女性の活躍が目立つ。全国の都道府県連や商工会でも女性部の一五万九〇〇〇人の会員が地域の活性化に大きな役割を果たしている。

そこで、今年新たに都道府県の女性連会長に就任した三人の会長にお集まりいただき、本多英一全国連組織運営部長の司会で、会長就任の抱負や現在取り組んでいる事業、全国連への要望などについて語っていただいた。

### 出席者

佐野佳世かよ 東京都女性連会長

三井怜子としこ 岐阜県女性連会長

奥野未知慧みちえ 京都府女性連会長

### 司会

本多英一 全国連組織運営部長

### 地域とのつながりを大切に

**本多** 今日は、会長就任の抱負や女性部の活動、成果、また今後の活動のあり方などについてお話ししたいと思いますが、まず、自己紹介を兼ねて、会長就任の抱負をお願いします。

**佐野** 国立市で画廊をしております。平成七年に女性部が誕生して以来部長をさせていただいています。大任を仰せつかり、最初は緊張と、どのような舵取りをしてよいか戸惑いました。しかし、各商工会女性部の部長に理事として支えていただいております。

心強く感じています。女性部の皆様がお互いに思ったことを話し合い、吸収し合い、心を通わせ、成長していくことが大事ではないでしょうか。

**三井** 山県市で呉服小売業を営んでいます。大任を果たせるか心配をしていますが、県女性連の役員の方々もよい方ばかりで、和やかに交流をし、輪を持ちつつ、地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。女性部長として一七年あまりの経験はありますが、諸先輩方にご教授いただきながら、県下五ブロックの協議会長さんや部員の皆様にご支えられて頑張っていこうと思っています。

**奥野** 私も大任を仰せつかり、身の引き締まる思い

でございます。しかし、前会長さんが全面的にバックアップしてくださいし、近畿ほか、他府県の会長さん方にも、いろいろとアドバイスをしていただくなど、とても心強くありがたいことと皆様に感謝いたしております。力不足ではありますが、「京都はひとつ。力を合わせて、明るく元気に乗り切ろう！」という意気込みで、皆さんのご意見を聞きながら頑張っていこうと思います。

**本多** 単会女性部の活動内容についてお伺いしたいと思います。まず、三井会長さんのところは、三つの商工会が合併したわけですが、活動内容やその取り組み方についてお話しいただけますか。

**三井** 山県市は、岐阜市の北側に隣接する山地丘陵部が多い地域です。平成十五年四月に三町村が合併して山県市となり、一年後の十六年四月に商工会が合併しました。女性部としては、すでに親商工会の合併が進んでいましたので、三町村が連携をとりながら事業を進めてきました。イベントは、地域にとって大事なものだから継続していこうということと、それぞれの旧町村単位で行っています。

例えば、本所のある高富地区は利平栗の発祥地で、今年も十月一日、二日に「くり祭り」を行いました。合併により、お祭りの規模も非常に大きくなりましたが、女性部は模擬店を出店するなど、全面的に協力し、お手伝いをしています。美山地区には行政の福祉部門がありますので「健康福祉祭り」を、伊自良地区では「伊自良湖祭り」を行っています。

また、女性部員の資質の向上と高齢者にやさしいまちづくりの一環として、お年寄りのために手芸教

室やパソコン教室や青年部との合同講演会なども行っています。

**奥野** 私のまち・京丹後市は、日本三景で知られる天橋立の近くで、夏は海水浴、冬はカニ料理と温泉で、たくさんのお客様がいらっしゃいます。また、丹後ちりめんの産地でもあります。

京丹後市は平成十六年四月に合併し、府内で二番目に広い市となりました。商工会は平成十九年に合併予定です。今のところは六町の商工会女性部がそれぞれ活動していますが、広域事業として「よさこい踊り」に取り組んでいます。

網野町としては、五五回目を迎えた「京丹後ちりめん祭り」を市のバックアップをいただいて、四月に盛大に行いました。女性部は、その中で舞台のシヨールなどのイベント関係を担当しました。丹後ちりめんを前面に出したイベントになっています。宝塚OBの方などにもご協力をいただいたり、よさこい踊りや着物シヨールをするなど、毎回工夫を凝らしています。

そのほか、女性部員以外でも参加できる太極拳やフラワーアレンジメント、紙ひもで作る環境にや

さしいエコバッグづくりなどにも挑戦していますし、老人ホームでのよさこい踊り、タオルの寄贈などのボランティア活動もしています。

**佐野** 国立市は二つの顔を持ったまちです。甲州街道をはさんで、南は江戸時代から続いている歴史を持つたまち、そして、大正の末期にJR中央線の国立駅を中心に開発された新しいまちで、その二つのまちが融合した東京の中でも特徴のあるまちです。

女性部は平成七年に誕生しました。それ以来部長として、どのようなことに取り組んだらよいか、皆さんと相談しながら運営してきました。

まず、環境問題に取り組み、平成八年からマイバッグ運動を始めました。国立ならではのバッグをつくるため、デザインを二人の女性デザイナーにお願いし、国立のイチヨウ並木とうさぎをイメージしたデザインをバッグの表と裏に入れました。幸いなことに、平成十二年に東京都の消費者月間事業のマイバッグコンテストでデザイン賞を受賞しました。

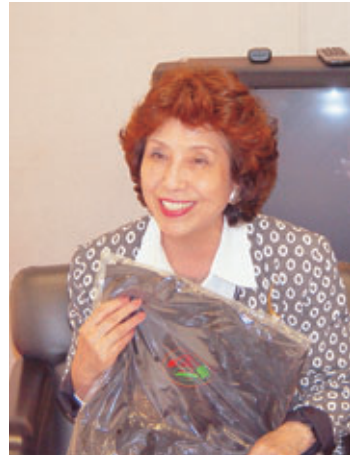
最近では、JR中央線の高架化工事で国立駅舎が取り壊されそうなのですが、何とか駅舎を残そうと願っております。女性部が協力できることとして、国立駅舎に少しでも興味を持っていただければと思います、マイバッグのデザインを駅舎に変えました。

また、マイバッグや国立駅舎のクッキーなどを女性部ブランドとして販売して得た利益の一部を社会福祉協会に寄付したり、青年部が起業家を育てるため、小学生に会社経営を体験させるチャレンジキッズ事業のトレーナーとして協力しています。

**本多** 「国立ブランド」ということにこだわりを持



三井 怜子氏



佐野佳世氏

つておられるようですが。

**佐野** 平成十三年に国立ブランドを考える検討会を立ち上げました。三年間検討しましたが、国立はいろいろ恵まれ過ぎて、何をブランドとして取り上げてよいかわからないというところに行き着き、国立で一番多いもの、国立らしい店に注目することになりました。花屋さんとかケーキ屋さんのマップをつくり、配布し紹介していくうちに、国立ブランドを発見できるのではというところで、三年目にマップづくりを行いました。今は、親会が国立ブランド創出委員会を立ち上げましたので、女性部も委員として参画し、一緒に考えることになりました。女性部としても、いろいろな面で親会に協力していきたいと考えています。

## 特徴を生かした都府県女性連での活動

**本多** 皆さんの熱意が伝わってきます。今度は、女性連のお話をお伺いしたいと思います。奥野会長さんからお願います。

**奥野** 京都府は日本海側が北部、真ん中が中部、京都市周辺が南部として位置づけられており、それぞれの地域が特産などに恵まれ、地域の特色がさまざまな形で生かされる活動を行っています。

女性連としては、これまではボーリング大会を開催していたのですが、最近は健康増進ということで、ウォークラリーを開催しています。昨年は宮津市で開催し、天橋立の松並木を端から端まで歩きました。

また、男女共同参画型社会の形成を目指す「KYOのあけぼのフェスティバル」には、構成団体の一つとして積極的に参加しています。京都消費者フォーラムにも、構成団体として参加し、生涯学習、環境問題などの研究、検討を重ねています。

**佐野** 都女性連として、環境に関する二冊の本を発行しております。一冊は、子供たちに環境を勉強してもらおうためのコミック本です。都女性連の役員の人たちが地域の学校に配り、非常に好評でした。その後、大人向けの環境の本も出しました。

現在の活動は、五つのブロックに分かれて研修をしております。また、部員のお店が一目でわかるようなブロックごとのガイドマップを作成することを、提案しております。東京都全体のマップに発展できればと思います。

個々ではなく、全体がひとつになって何かを生み出す、スケールメリットを生かした事業を考えていきたいと思っています。都女性連が三五〇一人、関東ブロック五万二〇〇〇人、全女性連だと一五万九〇〇〇人の組織がスケールメリットを考えて何かをすれば、爆発的な力が出るのではないのでしょうか。

**三井** 昭和六十二年度より全県下の事業としてスタートした結婚相談事業も、二〇年近くなります。この間、企業経営の「後継者対策」や地域の「人口定着」に少しでも寄与しようと、県下五ブロックでフレンドリーパーティを開催したり、毎月第二水曜日を「結婚相談日」と定め、県下二三〇名の結婚相談委員（女性部員）さんが対応してきました。これまでに紹介件数七二五四名、見合い件数一九九二件、結婚成立二二〇組の実績があります。

今年度は県下の七七商工会女性部から男女一名を募集し、岐阜市内のホテルで十一月二十日に「県下統一のフレンドリーパーティ」を計画しています。県下統一の事業としては、平成十年以来七年ぶりに開催します。私たちは世話焼きおばさんなんですけど、多少なりとも少子化対策に貢献できればと思つて女性部のメイン事業に掲げているんです。

また、県独自の事業として、住民やお客様との信頼関係を深める目的で実施している「スマイル運動」があります。毎月一日と十五日を「スマイルデー」に定め、統一シンボルマークの入ったエプロンやステッカー、「ありがとう感謝の心笑顔から」の標語を決め、全女性部で活用しています。さらに高齢化対策として、二級・三級のホームヘルパー養成研修に参加した部員や介護技術が必要としている人を対象に、「介護技術研修」にも取り組んでいます。

県が推進している「花の都ぎふ」運動の一環として、華道とフラワーデザインを融合した「寄せ植え華道」をブロックで開催し、四年目になります。今年はその成果の発表会を開催し、知事さんにもご臨

席いただく予定です。  
**本多** さて、市町村の合併に伴って商工会の合併が進んでいます。三井会長さん、合併のメリットは何でしょうか。

**三井** 仲間が増えたことでしょうか。別々の商工会にいた時は、その地区の行事に出席してご挨拶する程度でしたが、今は深くおつき合いができ、喜んでいきます。ひとつの単会ではなかなかできない事業が、広域的にできるようになったことも大きなメリットです。行政合併により面積が広くなり、山間地域の部員の参加率を心配しましたが、魅力ある事業を行えば、集まってくれると自信を持ちました。

**本多** 奥野会長さん、商工会の合併に向けてどのようなことをされておりますか。

**奥野** 合併の話が出た時に六町が会合を開き、女性部がひとつになるため、女性部連絡協議会を立ち上げ、丹後を明るく元気にするために、広域的事業をしようということになりました。すでによさこい踊りをしてきた町もあり、すぐによさこい踊りの受皿づくりをしようと意見が一致しました。

そこで、交流事業として、「ちりめん丹後夢よさ



奥野未知替氏

こい」という祭りを始めて今年で四回目になります。一回目は弥栄町のテーマパークで開きました。

よさこい踊りには、約六〇〇〇人もの入園者がありました。開園以来のお客さんで関係者もびっくりしていました。駐車場は満員、隣のまちまで行列ができるほど。びっくりするやら嬉しいやらで、「これからも続けてほしい」という町の要望もありました。

**本多** 地場産業のちりめんをイベント名に入れた理由は何かですか。

**奥野** 丹後は景気低迷に加え、着物離れで悲惨な状態が続いており、ちりめんを何とか前に押し出したという市民の声が多いんですね。関わりのない人でもちりめんを熱を入れてアピールしようと頑張っているんです。ちりめんをアピールするため、ちりめんを使ったすばらしい衣装をつくりました。衣装を凝らすことで、ちりめんをアピールできましたし、近隣からもたくさんさんのチームが参加してくださるなど、経済効果は大きいのではないのでしょうか。

今年、京都で近畿ブロックの大会があり、非常に多くの人が訪れてくださいました。丹後は観光地でもありますが、一人でも多くの観光客に来ていただき、まちの経済効果をあげていくことが私たちの夢でしたので、嬉しく思っています。また、よさこい踊りで健康を回復した人もおりますし、子供たちが元気になったという話も聞きました。踊りに参加しない人もスタッフとして参加してくれ、多くの人が交流できるなど、合併の前から交流事業を進めていて本当によかったと思っています。

よさこい踊りは高知県のお祭りですが、商店街活

性化や健康増進にも役立つということで、商工会の中から生まれたお祭りです。北海道のよさこいソーラン祭りでは、何百億円かの経済効果を生んでいます。ぜひ京都でもよさこい踊りを広げ、南部、北部と中部がひとつになればよいのですが。

**本多** 三井会長さん、今後合併する女性部に何かアドバイスはございますか。

**三井** 合併後は、旧商工会地区で行っていたよい部分を取り上げて、広げていけばよいのではないのでしょうか。例えば、高富地区で行っているボランティア活動では、他の地区の人たちにも参加していただき、お互いに交流を図っています。それぞれのよい事業を取り上げ、市全体へと輪を広げていきます。

地区によっては、合併で規模が拡大したことで、これまで参加人数が少なくてできなかったパソコン教室もできるようになりました。ただ、合併によって取り残されるような部員が出ないようにしなくてはなりませんので、そういうことがないように旧町村単位の役員が集まり、情報交換を行っています。

### 商工会、全女性連への要望

**本多** 親会や全女性連に対する要望なり提案などがありましたら、お願いします。

**奥野** 商工会はいま大変な時期にあります。佐野会長さんがお話ししていたスケールメリットを考えると、今後、他県が行っているすばらしいことはどんどん広げて、全国の商工会が一丸となって取り組める仕組みをつくっていただけるとありがたいと思



本多英一氏

ます。そして、商工会女性部が力を合わせて、夢のある目標に向かって頑張れたらよいですね。

また、会員にとっては、商工会に加入しているメリットが必要ではないでしょうか。そのため、商売につながるようなアドバイスとか、情報提供が大事です。もっと踏み込んだ商工会になっていただきたいと思っています。それは、女性部にもいえるかもしれませんが。

**三井** 平成十四年度から全女性連が実施している女性の創業等支援助成金事業は、今後もぜひ継続していただきたいと思っています。毎年、全国大会で主張発表大会を行っているわけですが、来年の四〇周年には助成金を受けた人の事例発表を行うと伺いました。これを機に、主張発表大会から助成金を受けている人の事例発表に替えてほしいですね。成功事例ばかりでなく、ご苦労された失敗事例についても発表していただければ、私たちの事業に非常に参考になると思います。

また、部員増強に常に取り組んでいるのですが、親会の役員の奥さんたちが加入していないので、ぜひ

ひ加入していただきたいと思っています。

**佐野** お互いに目的意識をしっかりと持ち、個であるよりもスケールメリットを生かし、皆さんがひとつになってできることを見つけることが必要ではないでしょうか。人のお世話をする人がいなくなっている中で、都青連がお見合い事業をしており、ぜひ都女連も参加させていただきたいとつくづく思いました。介護研修は国分寺市商工会がなさっています。お互いに取り入れて行えればと思います。

いろいろなアイデアをお互いに練れる心の交流がないとだめですね。狭い日本で、しかも商工業者である女性連の力がひとつになったら、すばらしいものが生まれるということだけは確信しています。そのれに向かってご指導いただければと思っています。

都市部の特徴でしょうか、最大の課題は活動への部員の参加率が低いことです。また、部員増強で動く時、「メリットは何ですか」と聞かれますが、具体的なことを話せないんです。調布市商工会が三〇名女性部員を増やして今回の全国大会で表彰されましたが、コッをお聞きしたら、理事会メンバーの奥さんたちに入っていたことからはじめたようです。親会役員の奥さんたちに、率先して加入していただきたいと思っています。

#### 四〇周年に向けて

**本多** 来年は、全女性連が創立四〇周年を迎えます。ぜひ女性部のスケールメリットを生かしたアイデアをどしどし出していただけたらと思います。

最後に、都道府県女性部連合会のトップとして、活動方針をお聞かせください。

**佐野** 都女性連理事会は各単商の代表、そのリーダーたちが集まっているわけですが、それぞれご自分のビジョンを持たれ、揺るがない強い意志を持つことが必要だと思います。私が引つ張っていくというより、私がまとめ役になりますので、皆さん一人ひとりがリーダーであってほしいということを理事会で申し上げました。ですから、理事会では、全員に発言していただき、発言をなさらず帰られることがないようにお願いしています。活力ある理事会を生み出すことによって、きっとその中から生まれるものがあるということを確信しています。

**三井** 一八年間会長職を務められた前会長の後を引き受けし、大変ですが、理事会で忌憚きたんのない意見を出していただいて、それをひとつにまとめ、前に進めていければと思っています。

リーダーとしての目的意識を常に持って、リードできればと願っています。「岐阜県商工会女性部連合会ここにあり」という形でやっていくのが理想です。自分自身のカラーを少しでも出せるように努力していきたいですね。

**奥野** 自分自身、大いに勉強させていただきながら、皆さんが何を望んでいるのかわかり伺い、皆さんのお力添えをいただいで活動していきたいと思っています。「京都はひとつ！」で、「頑張ります」。

**本多** 皆さんのお話を聞きして、非常にパワーを感じました。女性部担当として心強い限りです。本日はお忙しい中、ありがとうございました。